

さらなる活躍誓う

八学大スピードスケート部

1年の好成绩市長に報告

八戸

冬季ユニバーシアードなどで好成绩を収めた八戸学院大スピードスケート部の選手らが22日、八戸市庁に小林眞市長を訪ね、さらなる活躍を誓った。

訪問したのは古庄亜衣(3年)、鬼頭琴音(1年)、澤尻磨里英(1年)の3選手と船場亜希監督、松山政

義学長補佐。

古庄選手はユニバーシア



ポーズを取る(右から)船場監督、古庄選手、小林市長、澤尻選手、鬼頭選手

ード女子5000メートルで5位、3000メートルで8位に入賞。サブメンバーに選出されたチームパシユートでの出走はならなかったが、チームの健闘で銅メダルを手にした。初の国際大会挑戦となった古庄選手は「(カ

ザフスタンの高地でのレースに)ハイペースで入りすぎて呼吸が苦しくなっ

しまいベストを尽くせなかった」と反省を口にしつつ、来季に向けて「できる限りのことを精いっぱいやり、いい成績を残したい」と前を向いた。

鬼頭選手はジャパンカップ第4戦女子500メートルで2位、澤尻選手は同大会の女子マススタートで1位、本県代表として臨んだ冬季国体女子3000メートルで2位となった。2人とも来季の全日本距離別選手権の出場権を獲得しており「基礎体力をつけ、技術、精神面もレベルアップを目指す」などと意気込んだ。船場監督は「計3人の部員がそれぞれ結果を出し、充実した1年だった。新年度はさらに部員が1人増えリレーのチームも組めるようになるのでさらに活躍できるよう頑張りたい」と語った。

(岩村史生)